（明治四十四年六月十四日第三種郵便物認可）　大正十一年九月廿五日　第百五十五号　（毎月廿五日定期發行）

岐蘇林友

目次

赤い夕日の滿洲より旭光燦然たる校友諸君へ……雄山
勞賃問題管見……都竹武次郎
小川事業區に於ける伐木運材事業概況……長谷川毅
朝鮮林學愚談……山下不二三
官界二年有半……立道乙松
林友を手にして……今井徹郎
九月下旬の夜……YS生
苗圃日誌……二年今井一
彙報……
學校日誌
校友會委員任命
會員消息
領收金諸報告
編輯部より……

◎赤い夕日の滿洲より旭光燦然たる校友諸君へ

（二）　雄山

獨り滿州に限つた譯ではないが滿洲に於ける森林變遷の狀況を知らんと欲せば先づ滿洲に於ける文化發達の歷史を見るのが何よりの近道である併し文化發達の歷史なんて大きな事を言つた所で其の詳細などは此紙上に書けるものでもなければ其の必要もなし且又此題の主目的でもなし加之時恰かも盛夏の候でもあるから至極アッサリと夏模樣で要点だけに止めお茶を濁さうと思ふ多少氣のあるお方は進んで研究せられる樣希望する次、に誠に勝手な虫のよすぎる話ではあるが多少違つて居る点があつても野生の責任とせず可然御訂正を乞ふと前置して扨て滿洲は支那本部では既に三千年も前に肅愼と云ふ名で知られて居るが日本の歷史には千二三百年前に肅愼の人が佐渡が島に來たとか北海道に居たとか書いて居る尤も其の頃は本當の肅愼はなくなつて居たらしい牡丹には其の源を牡丹岑に發し一旦鏡泊湖と云ふ大きな湖水に注ぐ此の水が更に北流して牡丹驛附近で哈爾賓浦潮間の東支鐵道を横ぎり三姓地方で松花江に合するのであるが此の鏡泊湖の少し北方に肅愼が首部を置き此所々中心として中々發達して居たらしい次に高勾麗と云ふ國が起つたがそれは鴨綠江沿岸地方を主なる部分として國を樹て奉天以北まで版圖を擴めた餘と云ふ國が起つたが長春縣が中心であつた此扶餘が亡んでから高勾麗が益々大きくなり七百年も續き既年には朝鮮まで手を擴げ遂に平壤に都して所謂滿鮮を股にかけた程の豪の者ではあるけれども盛者必滅遂に唐に亡され次斯くして高勾麗なる名は一旦陷滅したが同じ種族が同じ地方でしかも高勾麗より遙かに大な國を樹てたそれを渤海國と云ふのである此國は日本に中々恭順な國なので割合好意を以つて迎へられて居たらしい此渤海が五京を立てたとあるそれは「忘るゝな五月廿四日午後十二時」で吾人の腦裡に深く刻まれて居るあの尼港附近に東京府過般頭道講馬賊襲擊事件で尙ほ耳に新しい間島局子衙附近に南京府鴨綠江沿岸輯安縣から上流帽兒山附近に西京府滿鐵線開原附近に最崇府、農安縣に扶餘府の五京を置いたとある尙ほ此の外松花江で吉林から約四十里上流に輝發河と云ふ支流があるが此の輝發河沿岸に中京府昔肅愼が據つたと云ふ牡丹江流域に上京府を置いたと云ふから滿洲大部分を主配した大國であつた事が分る之が契丹族に亡ぼされた勃海國は亡んだが之と同樣族のものが全と云ふ名で哈爾賓附近で國を建て、遂に契丹を亡ぼし宋を打破つたが蒙古族の元に亡ぼされた元が滅び明になり清朝になつたのだが元明時代には滿洲は女眞と呼ばれ振はなかつた兎に角大体以上の樣な治亂興廢

があり自然其根據地も多少移動して居るけれども前記各地は文化の中心なんて立派な言葉は用ひられぬとしても一度は人間の集合したことのある地である人間が集合すると森林に追ひやられるから地圖を擴げて見たら大抵の見當はつくだらう併し其の當時の人智程度並に人口の密度では此滿洲の大自然に對して頗る微々たるものであつた事は勿論である

清の大宗が國號を大清國と改めると同時に故國を滿洲と命名したとあるそれは父太祖の尊稱が滿住と云つたので父の舊地であつたことを永く記憶に存せしむる爲だと云ふ而して此滿洲は清朝發祥の地であるから猥りに入り込んで此靈地を瀆してはならぬと云つて所謂封禁地とした唯一年に數回しかも滿洲人に限り人參を掘らせたり鷹の羽をとらせたり眞珠黑貂などを取らせて献納せしめた外狩獵伐木開墾一切を嚴禁した目下は勿論天產物の豊富なる根據地を失ふを恐れた爲であらう此政策が百年以上も經續したので昔多少殷賑であつた都會でもすつかり見る影もなく荒れ果て、了つた順次年代の記錄に「山海關を出づるを畏怖する虎の如し」とあるから其の當時滿洲なるものはまるで鬼か蛇かの巢窟の如く漢人から考へられ且つ恐られて居たものと見ゐる斯學の權威君山稻葉氏は次の樣なことを云つて居る面白く感じたから紹介して置かう

「滿洲の歷史の出發点は西紀前二八五年燕の昭王が遼河の下流域を東胡より奪取した時代に始まるのであるといふからその年齡に於ては早や既に老境に進んだものとも思はれるが不思議なことには彼女は依然たる處女であつた總じて云へば滿洲は近世紀に入るまで滿洲人のものであつた滿洲人はいづれと云へば定住を好まぬと云ふ傾向にあつたことや他にもそれらの傾向を助成する事情の手傳つたことやらで一般に地力を利用せなかつた彼等は天日尙ほ暗き森林に出沒してその得意の弓矢を黑貂の採捕に弄ぶか否らざれは水中に寶珠を探り巖谷に人參を堀採するといふことに悠久の日月を無雜作に送つたらしい勿論彼等の或者は支那本部に突入して漢人の文化をも味はつたのであるがそれは幾何もなくして失敗に歸し彼等は依然其故土たる白山黑水の間に歸栖せざるを得なかつた、ともあれ滿洲は一八〇〇年代に清人が其封禁の一角を解いて漢人を誘入するに至るまでは依然たる天產物採收時代であつ、かつ、農業時代に入らなかつたのである」

實に滿洲は貂皮、人參、眞珠、砂金等貴重な色々な天產物が豊富であつた其の當時木材などは勿論問題ではなかつたが嚴重な禁制の爲めにそれ等天產物と共に保護されたのである

野生が渡滿した當時滿洲に眞珠があると聞いて聊か異樣の感に打たれたのである馬賊の巢窟と稱せらるゝ濠江縣に珠子河と云ふ川がある此の川には澤山眞珠貝が居るので眞球の名產地とされて居る尤も此珠子河に限つた譯ではない松花江上流には大抵の處に居るあの川岸で夜光るものがあつたので翌朝早速行つて探したら立派な眞珠が入つて居る貝が見付つたとかいつもあの部分で夜光るものがあるからキッと立派な眞珠があると思ふが流れが急でとか水が深いとかで何うしても取ることが出來ずに居るなんてまるで善光寺如來の由來にでもある樣な話が處々で聞かされる眞珠貝が澤山居つても立派な眞珠の入つて居るのが極めて少ないらしい自然値段も相當高價である濠江に行くと日本人が來て泊つたと云ふことがすぐ解るから眞珠を賣りに來る者が可なり多い丁度修學旅行で宿につくと色々其の地の名產を持つて來る樣なものだ併し私は眞球賣りで御座ると云ふ顏付きして澤山持つて來るのではない大抵其の地の百性らしい者が今年とつたのだ去年取つたとのだと云つて五つか六つ綿などに包んで持つて來るのだ見ると中々立派なものだ値段はと聞いと十圓位から二十圓二十圓位まであり矢張り高價なものは素人目にもよく見ゐる此奴め日本人と見てかけ値する等思ふから先づ半値位につける暫くの間は掛引交渉談判で暇をつぶすか、どゝのつまりは半値に二三圓增額して買ひ取る腹の中では甘い堀り出し物にありついた氣で北叟笑んで暇次第出して眺めて居るまだその位ならよいが中に

はとんでもない商賣氣を出す者もある併しそれは十中の十までは僞である否人造眞珠である硝子細工もあるが魚の眼球に藥液を注射して作るのもあるさうな最初から人造眞珠として買ふのなら何んでもないが本場でしかもあんな百性に僞物をつかませられたと思ふと顏色變へるのも無理ではない眞珠を見別けるには齒にあて、見ると解るとか水に落して見ると解るとか板の上に輕く落して見ると解るとか種々な識別法が傳へられて居るけれども素人には一寸六つかしいそれに彼等は其の位のことは百も承知二百も合点其の上賣り方は頗る非常に巧妙と來て居るからかなはぬ野生などは是等裝飾品に對しては至極沒趣味であるから其の難は免れた勿論余分な金錢を持たなかつた爲である砂金も中に多い小川の附近に砂金を堀つた跡がよく見受ける併し現に着手して居る所はまだ見たことがない露西亞人も可なり奥まで入り込んで砂金を堀つたものと見ゐる松花江上流で水源地附近に帽子營と云ふ所があるがそれは露西亞人が砂金堀りをして居た所らしい其の當時支那の苦力や百性などで帽子を被る樣な者はなかつたのに幾十人かの露西亞勞働者が悉く防寒帽やら夏帽やら期節相應の帽子を被つているのが目につき遂に其地名となつたものと見ゐるそれから人參である朝鮮人參の名は普く知られて居るが滿洲人參の名を知らぬ人もあるだらう實に長白山脈の一帶は此の名產地である朝鮮では大々的に栽培をして居るさうだが滿洲には大規模のものはないらしい而して野生のものでなければきゝめが薄いと云つて居る此頃所謂山人參賣りが來たと云ふから見ると二十根ばかり苔に包み更に其の上を木の皮にて包み如何にも深山幽谷から堀つて來たと言はぬばかりだが其の實濠江の眞珠賣りと同樣至極怪しいものだ併し之は毒にも藥にもならぬ木の根や草の根を甘く胡麻化して持つて來たのではない人參は人參だが果して野生であるか將た栽培したのであるかが疑はしいと云ふ丈けだ獸皮類も中々豊富なものである黑貂の皮は山で見たことのない河獺はよくとれる熊は又頗る多い支那人は熊の皮は賞美しない熊の掌は料理に或は藥用として賞美せらるゝので特別注文で剝いだ皮でなければ大抵手足のない皮だ毛皮に頭とか手足とかが付いてなければ全く藝のないものだ虎の皮も豹の皮より高價である支那人は虎を山神として恐れて居る殊に山稼ぎの者は甚だしい是等のものは決して單に虎と呼ばずして老虎と云ふ此の老は年寄りと云ふ意味でなく敬語である老爺と云ふ語もあるが之は老ひボレヂ、と云ふ意味でなく旦那樣と云ふのだ虎の皮は多くは敷物に用ふるのだが支那人は普通の人間が虎の皮を敷くと貧乏すると云つて居る褌にするのは雷樣だが年が年中眞裸で全財產としては太鼓丈けらしいが全くそれか爲めだと云ふのでもあるまいが露西亞人は殊の外に外套に金をかけると聞いて居るが支那人もさうらしい着て來た毛皮によつて席順が定められるとまで言はれて居る狐の毛皮を防寒外套の裏に用ゆるがそれは三寸角位から五寸角位な小片を繼ぎ合はして作るから外套一枚分に要する狐の數は決して少くはなからう羊の皮は余り上等なものに用ひないが羊の毛皮でも上等なものは中々奇麗だ支那人はせい丈けの長い上衣を着るが其一枚分は三十圓も出せば可成なものが買へるだらう外套に用ひる狐の毛皮はのど皮の處だけ集めたのが最上等なさうな千羊之皮不如一狐之腋とやら云ふことがあるが兎角上等な處だけ集めたのは裏だけでも七八百圓や千圓位はするらしい　（未完）

◎勞資問題管見

都竹武次郎

八時間制も布けない國が
お臍茶沸かせ、一等國

成程、時をあまり隔てずに、西で開かれた平和會議で、人种平等を主張した一等國が東で開かれた勞働會議では、除外例要求をした、然しこの撞着は強ちに政治の罪ではない、國民的にこの撞着なからんやう

國情の改善に努力すべきである

本邦舊來の不文の勞働規約に現れた現實の勞働振りを見給へ、赤壁賦もときぢやない

が、運ぶが如く、歌ふが如く、烟草を吹かすが如く、雑談するが如く、而して熟視すればやうやく働くが如く、といひたくなる質量的に考へたら八時間は愚か、六時間位しか正味の働きをしてゐぬ、嘗て或米人技師が丸の内のさるビルデング工事を監督するに、八時間制で人夫職工を雇役したがそれが本國の勞働者を使ふやうにぐん〳〵八時間やらしたところ日本の勞働者達は全く庇右垂れたさうだ、結局この問題は量よりも質の如何に歸納してしまつた、丁度人生の命數は徒らに自然の時間數よりも、その活動した過程の如何によつて決すべく本邦古來の醉生夢死主義を排すべき思想に一致する

先づ以て勞働者自身の能率、休力、勤勉等の諸方面から改善し、漸進すべきである

この自省は、單に筋肉勞働者のみならず精神勞役に經事するものにもあつて欲しい近ごろの官廳で見ると、登廳八時としても朝刊をポケットに入れて來て讀んでる、やがてそれらの新聞記事が話材では一時間を費し、執務にかゝるがまづ九時、二時間もやればもう食事の用意、食堂から出てくるのが一時ごろ、三時にはまう長官の退廳やおそしと時計を睨み、四時で籠から拔けて出る、通算して見たまへ、正味何時間勤めたかを、凭うした呑氣さは上級官衙ほど多く、場末へ行く程少く、むしろぎゆうぎゆうしめつけられて居る

整理などは、まづ此邊から施すべきものである、日本ほど人口の割に官吏の多い國はないさうだ、整理職員の給料を殘余の官吏に給與！その勤勉振りを改めたら、決して事務の停滯は來すまい、

吉野博士の說に

「西洋の役人は同じ地位に五年も十年も置かれると既に其仕事に練達を加へて終には伎神に入ると云ふが如きは尠くないと聞いて居る」

日本の役人は之に反して、同じ地位に居る事長ければ長い程、仕事がノロマになつて仕方がない、頭が年と共に化石するものらしい、之は元より役人に限つた事でない、銀行會社の勤め人でも、學校の教員でも、大概同じ事だといふ

一躰どうして斯ふ云ふ差が出來る？頭の素質が性來違ふのか、否、仕事のやり方が拙いのか、否、然らば何處に根本の岐れ目は存するか、曰く、日本に於ては役人たる個人に創意の自由活躍を認めないから」といふのがある、

稀れには博士の說の如く、伎神に入るの練達有望の士もあるが、停滯久しければ腐るの類の輩も多い、他山の石としてお互に心すべきではないか、尤も現狀ではあまり に働きすぎても、却つて、はたが五月蠅いもので、雖騷の一篇を遺して汨羅に投じた屈原が今世にゐたら、大々的に慨歎する事だろう、此点は上に立つ人も、下に働く人も、歩調と呼吸を一にして改善すべきである、勞働問題は大戰後俄かに擡頭した問題である、時流に投じたとでも言ふか、勃然として起り、小賢しい一派の人達は、これを喰物にして渡世して居る、見玉へ某々の如き各地の爭議毎に東奔西走して居るがそれらの軍資の一部は、資本家の欲口料から支辨してるとの噂もあるではないか

米國のやうに資本家が絶大な勢力を持つてゐても、社會は圓滿とは言へない、英國の如く勞働團が不拔の威力を持つて居ても産業は發展すると限らない、勞資は元來協調融合すべきもので相爭ふべきものでない兩者各持しての剩益獨占は、畢竟兄弟牆に相鬩ぐの類たるを免れず、一國産業の荒廢を來すべきは白明の理である

殊に勞働者の暴威は、あまりに自己直接の利害に拘泥して、國家經濟の大局を顧みずして、その國民的品性を害すること夥しいものがある

勞働時間の問題についても嘗て勞働會議の席上某二流國代表が「後進國がその後進國たる域を脱せんが爲めには、唯先進國よりも多く働くの一事あるのみ」と發言したのは誠に肯綮に値する、然り先進諸國の産業上の、原料の配給、物資の運輸交通、機械の精巧、生産の設備等の完全は勞働少くとも後進諸國の企及し得ざる多大の成果を收めつゝあるを思へば、その及ばざるを補ふには唯多く働くの一途あるのみだ、加之

彼我勞働者の体力能率に於て徑庭甚しきに於ては、更に多くの時間に亘つて働かねばならぬのである、一例が船舶などで八十人の毛唐で運轉し得る船は、邦人百人を要するとの事である。

大戰中折角護得した支那南洋印度方面に亘る　我商品の販路が　再び歐米の爲めに蠶食奪還せられようとして居る、時局は産業的にも極めて重大な秋である、この時に際し内に爭ふことをやめ、協力一致外に對し我商權の確立につとむべく、資本家も勞働者も自覺してほしいものである。

近頃幾分か勞働爭議が下火になつた感がするが、今度は農村的勞資問題たる、「小作爭議」の擡頭して來た事は、これ亦厄介な問題である。

要するに勞資が不幸にして爭ふ場合と雖も、當年者以外に破及するところ大なるを思ひ、協同を國家的經濟におき、その消長を以て念とし協調提携して、解案に達してほしいものである、斯る國民的努力の結果として、先進諸國に伍し名實共に世界の一等國になり得るのである。（完）

——大正十一年九月十五日誌——

個人創意の自由活躍に付ては何れ稿を改めて述べたい考である　（筆者）

○小川事業區に於ける伐木運材事業概況

三、運材事業

第三、作業軌道（續）

（三）積載量

一臺の積載量は私共の今日迄の經驗上より記すれば左の通りである

材種	程度	最大	平均	最小
皆伐材		二五、〇〇	一七、〇〇	一三、〇〇
擇伐材		二〇、〇〇	一五、〇〇	一二、〇〇
間伐材		一〇、〇〇	一四、〇〇	一〇、〇〇

積載量に多少の生ずる主なる原因は

（一）樹種

（二）木材の乾燥程度

（三）木材の細太及長短

等で皆伐材は擇伐材及間伐材に比し善く乾燥して居る爲に重量輕くして積載量多く皆伐材及擇伐材は間伐材に比して一本當材積は常に多いのである卽（直徑太く長さ大）から從て積載量は多くなる譯である

（四）搬出量

一日の搬出量は運轉臺數の多少、平均距離材種の如何、積込場の箇數等に依つて一樣でないが、積込人夫八人乘下人夫一五人一卽ち一五臺の運搬車運轉）卸木直人夫二人就業するものとして距離の遠近に依り一日搬出量を記すれば左表の通である、但し皆伐材の場合とする

平均距離	一臺積載量	一臺延臺數	運轉臺數	一日搬出量
一、〇〇	一七、〇〇	二、五回	一五臺	六三一、五〇
一五、〇〇	一七、〇〇	二、〇	一五	
二、〇〇〇	一七、〇〇	一、七	一五	四三三、五〇
一、五〇〇	一七、〇〇	一、三	一五	三三一、五〇
三、〇〇〇	一七、〇〇	一、〇	一五	二五五、〇〇
三、五〇〇	一七、〇〇	〇、八	一五	二〇四、〇〇

備考

一日搬出量は

（一臺積載量）×（運轉臺數）×（運轉臺數）に依て求めらるゝのであるが搬出量が距離に比例しないのは積込荷造、卸木直に距離の遠近に關せず一定時間を要するのと距離が近かければ近い程往復回數が瀕繁であるが其際擢り違ひに時間を費したら或ひは積込場に於て先着のトロリーを待たなければならぬ場合があるからである

（五）　得失點

軌道運材の得點と認むるは

（一）搬出量の多くある事

（二）木馬運材と同じく木材の損傷少き事

（三）士橇、馬運材等に比し固定搬路なるに依る三、四ヶ年は使用に堪へる事

（四）特別技能を有する專門的人夫を要せず短時間に於て熟練し得る事

（五）降雨降雪の爲に休業する事の少き事

（六）他の運材に比し危險及流材の虞なき事

缺點と見る可きは

（一）交通の便利ならざる處にては軌條其他の用具品の運搬に困難なる爲設定し難き事

（二）勾配緩斜なるに依り距離に於て損する事

（三）搬路の修繕に費用を多く要する事等である、得利点の多い割合に缺点の少いのは本作業法が現在の運材法に最も適切であり又經濟上有利であるかを知り得るのである、又本年度は米國よりガスリン機關車を購入して此軌道運材に使用すると云ふ計劃があつて本年春期より運轉する豫定であるから又此作業軌道運材に一革新を見出す事になるのであらう

第四　森林鐵道

抑々小川事業區が今日見るが如き理想的林業を實現し年々進歩隆盛の域に進んで行く事の出來ると云ふのは前記に拙述した大正五年六月森林鐵道が完備して交通運輸の便益を得た其賜物であると云はなければならぬのである、是は木曾の原始的大森林を第一着手に開發した大なる成功として帝室林野管理局の誇り得る最も顯著なるものであらうと思料するのである、是が輸送に依つて林產物の利用範圍が如何に擴大されたかは前說「造材（ロ）」に於て述べたのであるが啻に林產物の利用增加のみならず凡ての事業の管理、物資の運搬勞働者の生活に至るまで現在本事業區に於ける有ゆる方面に於て一として此恩惠を被らせぬものはない、今森林鐵道工事の要項を記せば左の樣になる

（一）起工　大正二年

（二）完成　大正五年六月

（三）延長　十五哩二分

（四）勾配及最小半徑

線路	最小半徑	最大勾配	平坪勾配
南股線	二十間	1/24	1/31
北股線	二十五間	1/20	1/23
本線	二十間	1/21	1/31

備考

上松停車場より小川入字小中尾間迄（延長六哩）の間を本線と云ひ其六哩の地點に於て右左に分れる、右を北股線と云ひ其終點は小川字黑澤で一方左は南股線と云ひ其終點は小川入字上赤澤である

（五）線路

路床幅員　九尺

軌條のゲーヂ　二呎六吋

軌條重量　二十封度

枕木數　一哩に付二千五百挺

（六）總工費

四十三万一千五百六十八圓餘

而して是が運轉に使用して居る機關車は七噸半乃至九噸の大さで一日平均二列車五回の運轉で一臺の機關車で貨車七臺乃至九臺（前記四の如く北股線は勾配が多いから從て貨車の運轉も七臺で南俣は八臺若しくは九臺を運轉する事が出來るのである）運轉して居るのであるが其一臺の積載量は皆伐材二十二石乃至二十五石間伐材は十八石乃至二十石で搬出量は一日最大の時は一千石以上に及んで居るが一年輸送期間を平均すれば七百位で一年分の搬出量は凡そ十五万石乃至十万石位である、現在の年額斫伐材積に對して充分に搬出力はあり、却て上松停車場に卸し積木された木材が省線貨車の配給不充分の爲毎年多量の木材が山積されて居る樣な譯である

以上搬出量は官行伐木の木材に就いて述べたるのみであるが、尙此外に官行薪炭、拂下林產物、民有の木材及雜種物等製々雜多の林產物が谷深き山奥から絶ねず吐き出されて居るのである、然も是等の林產物を搬出する爲には殆ど年中無休で唯降雪の際線路の降雪の濟むまでの僅かな日數しか休業せぬのである、尙此森林鐵道の運轉力に就ては現在の蒸氣機關車を廢して新に電氣動力を起して、運轉の完備經濟上の利益を圖り又其他の作業動力に利用するとの計劃があるさうであるが是も時勢の進運に從ひ新機械の勃興と相俟て遠からず實現する事と信ずるのである

（編者曰　右は六月蕨所載三運材事業の第三作業軌道運材（二）運搬車の次に續き七月號との間に位するもの種々の粗漏により印

刷所にて紛失せるもの、印刷所は極力探索の結果遂に見當らず本校に來つて訴へたるにより、長谷川君の草稿を當方にて筆錄せるものである、長谷川君及讀者諸君に謝す

朝鮮林業愚談

山下不二三

○治水問題

各地の新聞紙上大々的に唱導された樣に本年夏朝鮮に於ける各地の水害は實に激甚を極め殊に黃海道京畿道の水害はその慘狀言語に絕した京義線南川附近に於ける水害の狀況を聞くに數千戶流失し數百人溺沒し一市街全滅したと云ふ事である大小水害擧げて數へられず筆舌在任地の如きもその洗禮を受け推算二十余萬圓廣袤一千數百町歩に亘る農作物の被害があつた位である本年の樣な激甚な水害は別として朝鮮に於ては毎年多少の水害のない處はなく殊に京城竜山に於ては漢江氾濫の爲毎年多大の水害を蒙り少々の降雨でも戰々恟々として居る有樣である。

之が爲その都度識者特に林業家土木家は聲を渴して治山治水の焦眉の急なる事を天下に呼號するけれども大抵はその時その塲に於て民衆も注意を喚起するに止り秋風が吹て來て冬間近くなる頃には大概忘れられてしまふキリストが「我かちまたに立ちて笛吹けども汝等躍らず」で實際情ない次第である「喉元過ぐれば暑さを忘る」の俚言の如く如斯狀態で行つたら何時たつても朝鮮は水害に苦しめられるであらう人間と云ふものも案外御芽出度く出來て居るに驚かれる

○適地適木

獨逸敗殘後の今日に於ては日本は世界唯一の林業國だと云ふ事を屢々聞くが「何處が林業國だ」と反問したくなる極めて平凡にして林業の基礎をなす適地適木の調査の如きも完成して居らぬではないか

○ポプラニセアカシヤ

前總督寺內大將在職當時何でも朝鮮は山が荒廢して居るから一日でも早く青くしなければいかんそれには早く育つて燃料になる樹を植えなければいかんと云ふので朝鮮の南の果から北の果までニセアカシヤポプラを植ゑさせたものだ其の御蔭でポプラニセアカシヤは大分蕃殖し道路の並木人家の近傍畦畔等鮮內何處へ行つても立派な森林が出來たが山に植えたものは大抵枯れて居る之は枯れる筈だ大体山の適樹ではないから之も喉元過ぐれば暑さを忘るで此頃は之等が大きくなつた爲田畑の日陰になる、ニセアカシヤは蕃殖が甚しくて耕地にまで侵入して來るといふので斫り始めた處が多い他下の寺內さんも泣くだらう

○景色

足一歩釜山に上陸して京釜線列車上の人となり過ぎ行く窓外の景を眺める時何人と雖も其の荒凉たる景に愈々旅愁しそゝられるであらふ特に嚴冬の候が尙更である山は骨突として超伏し人煙稀にして變化の少い景は淋しいものだたゞ吾人の眼を喜ばせるのは鐵道線のニセアカシヤポプラの並木と村落のヤマナラシポプラニセアカシヤ等である「樹木は景は需はす」といふ事を痛切に感ずる

○宣傳

之は朝鮮ばかりではなからうか此頃朝鮮には宣傳といふ事がよく流行する「施政宣傳」「貯蓄宣傳」「衛生宣傳」「產業宣傳」曰く何宣傳と何でも宣傳である、幻燈活動寫眞ポスターの映寫粘付でいやはや賑かな事だ新聞屋は「朝鮮の此頃は宣傳政治である」と評して居る宣傳もよいがこんなにのべつ幕なしに宣傳するものだから宣傳に食傷して結局民衆の頭は白紙を眞黑にされた形で何を宣傳されたかさつぱりわからなくなつて居る

○山野國

朝鮮全道の山林面積は一千六百萬町歩に達し全道面積の七割三分を占めて居るといふ事であるこの一千六百万町歩から一ヶ年間に三千万圓の林產物の收入があるそれで一町歩向約二圓弱に過ぎない之れを內地の一町歩向約四拾五圓の林產物收入に比較する時は二十三分の一である世人朝鮮は山の面積が廣いから山野國だといふが私は敢て山野國といひ度い樹のない處は山林ではない

官界二年有半（承前）

立道乙松

就職して先づ意外に感じた事は階級制度のないことであつた、これだけでも地方廳はさすが呑氣である、殊に技術上の仕事よりも行政上の仕事の多いのには意外であつた、私は思ふこれからの社會は地方廳の官吏は勿論、技術本意の官廳に奉職せらるゝ方々でも、一通りの法學の心得が必要であることを述べて置きたい、我等の日常生活に米の必要な樣に、法律位必要なものは又とない、如何に技術が出來交際がうまくても、法の心得のない者は社會の落後者である。

それから執務時間中といへども、色々の商人が物品を販賣にのも込んで來る。先づよく來る順から記すと、筆賣り婆さん、朝鮮人參賣り、西洋人の洋服地賣り、支那人の傘賣り、市内の靴屋、印刻屋、桃賣り、梨賣り等が毎年の樣に來る、殊に月給日と來ると彼等は列をなして來るには恐れてしまふ、これでは事務簡捷も出來ない、私は始めて來た頃、何故彼等の入廳を差止めないかとしきりに感じた、しかし一年もたつて見ると、やはり彼等もパンのためにサラワーメンの油蟲になつて居るのだと思ふと一層同情にあたひするのである、殊に面白いのは若い女の商人の時には、商品が賣り切れるのが常例となつて居る

地方廳はさすがに行政官臺で技術官はその附帶物たるに過ぎない言はば行政上の職人さんである、堂々たる技師が一屬吏の鼻息を伺ふといふに至つては悲觀せざるを得ない、産業立國を以つて本旨とする帝國が何故技術官を優遇しないのであらうか。昨今の新聞紙の報ずる所によれば帝大農學部長川瀬林學博士外數人の技術勅任の方々が、技術官優遇に關し總理大臣に對し建議したといふことを聞いて非常に喜ばしく感するのである

靜岡縣はさすが林業の發展して居るのに驚く、これは氣候地勢交通等に大なる關係の有ることは勿論であるが、縣當局者の指導宜しきを得た結果でもあらう、先づ伊豆天城山麓の山葵栽培を始め駿遠方面に於ける推茸栽培等はその著名なもので、年産額も全國を通じて有數の位置にある、又天龍川の植林事業は先般來山林會報でその大要を報せられて居るが、これは吉野林業の密植に對し粗植を本旨とし二十五年生位にて伐採しその林利の大なる之又他に比を見ないのである、靜岡縣を訪問せらるゝ當專問の方々は必ず天龍川方面の植林狀況並に天城山葵栽培狀況を親しく視察せられ、その技術の余りに巧妙なるに驚くのである。其他製材業並に木材の工藝的利用方面もかなり發達して居る。

私は着任以來縣有林係をして居る關係上縣下のあちゆる山中は跋渉した、伊豆天城山を始め天龍大井安部諸川の上流には隨分未開の土地もある、大井川の上流に位する或部落の如きは、十數年前迄は全く半原始的生活といつてもよいそうな稗粟等を栽培しそれを常食として居たそうで、近頃でも大抵の家は燒畑切替畑等によつて年々幾百圓といふ稗を取りそれを米と半まぜとして喰ふのである、この地の人々は皆々頭髪を長くし口ひげを延ばし一見仙人の樣なスタイルをして得意然として居るのも一寸面白い、本縣は大体に於て地勢氣候等の關係上人情風俗等も大体二つに分れて居る伊豆方面駿遠方面之である、伊豆は御承知の通り溫泉が各地に湧出し氣候溫暖に地味豊饒にして天與の産物に富み人情も厚い、この地方の人々は一度知己となればなか〳〵忘れず、いつまでも交際を續けんとする、又駿遠の各人が呑氣で物質的慾望が比較的少なく小雨でも降ると五、六月頃と雖も外に出て仕事をすることなく多くは溫泉に浴して遊ぶのである、女は男以上に呑氣で畑へ出ても大島節こそ上手に歌ふが仕事の行程は中々進捗しない、駿遠地方は之の正反對である物質的競爭も盛んにして一日の日と雖も無駄に過す樣なことなく、終日なりはひのために努むるのである、之が影響は林業上に及ぼし遠洲方面には植林事業早くより盛大に行はるゝに反し、伊豆方面は依然として原野狀態で茫々たる沃野は徒に雜草の繁茂に任じつゝある所が多い

過去二年有半を顧るに矢の如く早かつた卒業した時は色々の希望もあつたが、それも一つだにまだ實行に着手して居ない、只社會の荒波とは如何なる物であるか、それだけが明かになつた、私は卒業後今まで他の同級生の方々よりも比較的逆境にあつたしかしこれが却つて私を發奮せしめる動機となつたかと思ふと感謝して居るのであるそうしてこれから愈々運命を開拓して行かうと考へて居る。（愚文多謝）

○林友を手にして

今井徹郎

林友が前月號から大變に感じのよい雜誌になりまし、した私はこの事を非常に嬉しく思つてゐます、雜誌を作る場合に二つの意味があります、即ち商賣として販賣する場合と、機關雜誌又は團体中心雜誌として發行する場合がそれです、前者の場合は記事の撰擇と共にカットにも口繪にも常に洗練された、新純な心持ちを表はしてゐなければならないのです、讀者は常にどんな時代思潮に支配されて居るか、我々は如何なる意味に於ける發表にて讀者のバイロットなり得るか、といふ事を考へて前者の發賣政策は進展します。

林友は後者の場合があります、林友は如何にせば多く賣れるかと考へる必要はありませんか如何にせば林友をしてより良くならしめ得るかといふ事を考へねばなりませんが林友發行に對しての觀念は奇を求め新を追ふ所謂時流模索者のそれではなく溫みある内容を抱括せしむればよいのであります。而して讀者なる校友諸兄の林友に對する態度はどうでもよいと云ふ曖昧な意識を脱却して眼を通すべきものと考へるに至つて林友の價値は實現せられます。

林友は專問の林學研究雜誌としてそれで充分とは云へません、家族的なものにしなければいけません、そして愛着がきます林友の振ふ振はないといふ事は内容に學術的研究の少い事を意味するのではなく寄書する諸君の少いか多いかといふ意味でなければなりません。

林友の改善餘地は多々あります、が私は改善の第一歩として林友をリーデングする事を最初の出發点と考へます、リーデングする事は自己の内的意識をして專一に統一させます、そこには肯定の世界も否定の洞察も同情も成立します。

山の生活こそ現代生活に疲れた魂の憩ひの場所です山に入つてこそ深い想見の力と禮讃の念がをきます、ゼザンヌにせよタゴールにせよ獨歩にせよそうした人達が山に入つて瞑想した事は唯自然の偉大な美に打たれると云ふ意味以外に或力を山から求めた事は明かであります、私共は山の生活を求めてゐます、そして互に互の言葉を待つてゐます、林友はそれを迎へてゐます。

私共にとつて唯一の母校中心機關雜誌である林友をよりよくならしめる使命に就いて前記の想見はその一助と信じます、林友は今祝福の途上にゐます、私共は林友を守護してゐます、「林友に政策はない打巧はないあるものは誠實だ」これが林友の生命です

以上

○九月下旬の夜

Y S 生

○秋の川音たてゝゆき秋の夜の橋はもだして物をぞ思ふ

○何事か近づく氣はひ「時」よりも猶遠かに流れ行く水

○うたびとの歌作るべき此宵をばつめたくはやきあきうどの足

○秋の夜は橋にきかゝる人毎のさだめ淋しく思ほゆる哉

苗圃日誌（二）

二年　今井　一

四月廿七日　木曜日　晴

（一）日覆作製

すぐつた藁を兩側より床面から約一寸位づゝ出る樣に一並とし兩側に繩を二筋張り所々針金製のU形釘にて押へて日覆とす上に竹の如き比較的輕い重りを置く其上から水を撒布して乾燥を防ぐ

（二）肥料試驗及根切虫被害試驗

桶を土中に埋め苗圃の土を入れ設備をな

す

肥料試驗

肥料　種樹

油粕　くぬぎ

大豆粕　同

過燐酸　同

根切虫被害試驗

二箇所設置　一箇所につき根切虫五匹

植樹　くぬぎ　杉　落葉松

五月十二日　金曜日　曇

修學旅行で十日許り留守にした苗圃をどんなで有ろうかと好奇心やら心配やらで覗ければまだ余り發芽もせず床に日割がして居る余りの晴天續きで乾燥しきつて發芽出來ぬのではないかと思つて水を撒いてやつた

五月十七日　水曜日　晴

一般に發芽の具合が良好でない樣だ播種の下手なのか、あの日風がひどかつたからだろうか又此頃の晴天續きでか原因は此の三つを洩れないだろう水を施し日覆を直して歸る

五月十九日　金曜日　晴

放課後水を施して歸る

五月廿二日　月曜日　晴後雨

放課後除草給水

旅行から歸つた頃と思ふと余程發芽した私は仲々成績良好だ檜に比べて花柏は幾分か良い樣だ、日覆藁を所々拔きとり薄くす

五月廿四日　水曜日　晴

放課後給水手入及組擔當の赤松に雀の被害

稻防の爲白木綿糸を縱横に網の如く張る

五月廿五日　木曜日　晴

放課後播種床の手入旁々肥料試驗根切虫被害試驗を見る

肥料試驗に於ては油粕が最も成績が良い樣だ大豆粕は固形体なれば油粕や過燐酸に比して効果が遲れる今の處では一番劣つている根切虫の方はまだ被害の度分明ならず

五月廿九日　月曜日　晴

實習　播種床撒水除草

心配したが相當に發芽した

五月三十日　水曜日　晴

西澤先生の命を受け鉢に臺灣桐を播種し温室へ入れて歸つた

六月二日　金曜日　晴

放課後水を施して歸る

六月五日　月曜日　晴

實習　播種床手入給水

竹の重りを取り除き又藁を少しく拔きとる

六月六日　火曜日　晴

實習　給水手入

六月十二日　月曜日　暗

實習　給水手入

六月十六日　金曜日　晴

除草

六月廿七日　火曜日　晴後雨

除草手入

七月三日　月曜日　雨

馬市の頃となれば連日の晴天も小やみさへなき雨降りとなりじめ〳〵と麝陶敷い雨に打たれて傷みはせぬかと苗圃を見る此雨で俄かに伸びた樣な氣がした

苗圃もぼつ〳〵雜草の繁茂する頃が來た

七月六日　木曜日　晴

漸く雨もきれた樣だ晝休みに一寸足を運ばせて草をとつたり藁を直しりした直ぐお隣の二君分擔の所は久敷く除草もやらないので一際草が多い序に除草した

七月十三日　木曜日　晴

晝休中除草

七月十九日　水曜日　晴

試驗で暫く見なかつたので一寸覗いて見た檜花柏は成績の良いので五十%までも發芽して居らぬ樣だ

七月廿五日　火曜日　晴

三日許りの休みで自省昨日歸校した今朝苗圃を見れば皆立派な日覆が施され草も奇麗にとられてあつた

彙報

○學校日誌

九月

一日　金　晴　第二學期始業校長訓示實習

四日　月　晴　都合により終日實習

八日　金　晴　農商務技手遠藤治一郎君（二回卒業生）訪問視察

十七日　日　晴　縣技師下川氏引率農事試驗場講習生五十名來校參觀

菊地先生博物協議會出席の爲壎尻農學校へ出張

廿一日　木　晴　校長出縣

廿四日　日　晴　松本市弓術師範吉田先生來校教授

廿八日　木　曇　縣下實業學校聯合運動競技會のため小貫先生南安農學校へ出張

廿九日　金　雨　前記聯合マッチに選手三十五名應援團と共に菊地、伊藤兩先生附添南安農學校へ出動講堂にて校長の壯行辭あり

卅日　土　晴　繰替休業

○校友會各部委員任命（九月十六日）

庶務部

井出　進

井戸一郎

二木清勝

櫻井　清

雜誌部

小野久孝

田口學

原田稔

西村勝二

辯論部

今井　一

征矢辰三

山内勝

長瀨稻作

柔道部

岩尾慶一

安江道雄

米倉　寛

加藤　積

劍道部

村上　賴

吉田邦男

唐澤繁喜

伊藤福次

庭球部

若井嘉久太

青木友廣

蜂谷　晃

小幡義正

○會員消息

○小林孝三郎君（十九）北海道札幌市北七條西十二丁目北海尙志社居住

○今井與一郎君（十九）岐阜縣山林課に就職

○三原忠一君（十七）上田市松尾町六十三銀行裏居住

○中島信敏君（十）群馬縣前橋公有林野官行造林署へ轉任

○宮田實君（三）朝鮮忠淸北道沃川驛前に轉住

○山崎多門君（十六）木曾銀行（福島町）勤務

○島田勘四郎君（八）兵庫縣朝來郡山口村原殖林事務所勤務

○高柴眞治郎君（七）舊來誤用し來れる眞次郎を眞治郎と改めらる

○下島俊二君（十五）福島縣信夫郡大笹生村林區署官舍内居住

○松川久吉君（十二）臺灣新竹州大湖郡大湖樟造林作業所内居住

○立道乙松君（十七）鳥取縣廳林務課轉任

◎諸金領收報告

○林友代

一金壹圓五拾錢也　高峯傳治君

一金貳圓也　島田勘四郎君

一金貳圓也　鵜殿正雄君

一金貳圓也　赤羽三郎君

計金七圓五拾錢

○記念會醵金

一金拾圓也　佐藤誠一君

一金拾圓也　原彌藏君

一金拾五圓也　勅使河原角藏君

一金五圓也　島田勘四郎君

一金拾四圓也　高柴眞治郎君

一金拾貳圓也　岡西猛君

計金六拾六圓也

累計金貳千〇拾圓也

○塚越先生謝恩金

一金貳圓也　星加晴雄君

一金貳圓也　篠原將英君

一金壹圓也　片桐藤吉君

計金五圓也

累計貳拾五圓也

◎編輯部より

○暑さ激しかりし代りに秋冷忽ち來り驚入候　兩日もり返す日ありしも既に秋は全く木曾の山野をこめ日に增し梢は紅となり黑川渡の橋に立ちて眺むべき杭の原を圍む山々の紅葉は今暫くと存せられ候殊に二三日の時雨にとざされをり候まに東の里山を超して見ゆる駒ヶ嶽の頂邊はコバルトの針葉樹に混じて既に早く紅を點じ偏へに高山早秋の感有之候秋季運動會の日夕色漸く來り競技も最後と相成りし頃の足袋跳足のつめたきは間もなき事に有之候

○林友の原稿はなるべく多勢の諸君のものを望ましきこと御同樣に有之候是非各地の諸兄より澤山御送附相成度原稿足らざるに種々塡充して之を發行するなど餘りの苦心を爲すは却て本誌存在が意義に反するものと存候何卒研究漫筆の種類を問はず御送附相成度候尤も近頃七宮先生始め多忙なる諸兄がなつかしき原稿を寄せらるゝは實に喜ばしく存ぜられ候

○原稿用紙御要求下されば御送附申上ぐ可く又普通の原稿用紙に御書き下されば頗る便利に有之候歌などは別として姓名明記は良習慣と存候

○林友代未納御心附の諸君は是非御送金相成度候近頃の卒業生諸君の中には間々有之候間何卒御願申候

○塚越先生謝恩金につきても十六回以後の卒業生諸君醵出相成度存候

○林友印刷は何分遠隔の地に候間一度も之を校正する事なく致居候普通の印刷は如何にするも二三回は校正を經るにて候誤字脫字などあり遺憾に候へ共當地による印刷所なき故に致方なく又毎月一回の旅費を給して校正者を派遣する事も能はず候此事御含みを被下度候

○秋天漸く澄み運動シーズンと相成候九月卅日は縣下實業學校の聯合マッチにて本年は稍練習も爲し得て弓術を始め各部相當の成績を上げをり敵にして頗る破格の猛者ならざるに於ては或ひは吉報を來月の誌上に齎し得るやに存候又母校の運動會當日は附近在住の諸君は萬障繰合せ御來校相成度豫め誌上にて御願致置候終

大正十一年九月廿三日印刷
大正十一年九月廿五日發行

長野縣西筑摩郡福島町四四番地
編輯兼發行人　安井正夫
長野縣松本市小柳町六五番地
印刷人　淺川吉藏

長野縣松本市小柳町六五番地
印刷所　淺川活版所
長野縣西筑摩郡福島町三六番地
發行所　蘆澤書店

【定價金參錢】